

# 2023年度(令和5年度)学校評価自己評価表

大成館中学校区	校番 28	福山市立神村小学校
最終更新日		2024年(令和6年)2月13日

## I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

## II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 ・教職員の健康を考慮しながら、児童生徒の指導をしてほしい。 ・中学校区の取組についても積極的に情報は発信してほしい。 ・児童・生徒の学力向上に取り組んでほしい。 ・長期欠席生徒減少に向け、小中で連携を深めながら指導を充実してほしい。	児童生徒の現状 ・学力の伸び調査では結果を出しつつあるが、全国学力調査では、多くの教科が全国平均を下回っており学力の定着に課題がある。 ・主体的に物事に取り組もうとする児童・生徒も多く、総じて素直な子どもが多いが、自己表現力など個々で差が大きい。	育成する力 21世紀型“スキル&倫理観” めざす子ども像 義務教育修了時の姿 中学校区として統一した取組等	【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【主体的に学ぶ力】【自己形成力】 ・確かな学力を身につけ、自ら進路を切り拓く子ども ・自己肯定感が高く、社会に貢献できる子ども ・「主体的な学び」の授業づくりに取り組み、学力を向上させる。 ・「自己表現」「あいさつ」に取り組み、自己肯定感を向上させる。 ・「自分で選び・決める活動」に取り組み、自己形成力を向上させる。
--	---	---	--

## III 自校

ミッション 心豊かに自立・貢献・感謝する児童を育成し、保護者・地域から信頼され、共に歩む学校	学校教育目標 心豊かに自立・貢献・感謝する児童の育成 ～自ら考え、表現する・やりきる・関わり合う神村っ子の育成～	現状 <児童生徒> ○自ら考え、表現する・やりきる・関わり合う力は意識できるようになり着実に高まってきている。 ●コロナ禍のもと、挨拶ができなくなってきた。 <授業> ○「予習型授業づくり」に取り組み、事前の予習、展開での話し合い、適応題の量の確保、個別の支援が充分できる授業づくりが進んだ。 ○ロイロノート、Meet等のICTを活用した授業づくりが進んだ。 ●「子ども主体の学び」として、子どもが主体となって選ぶこと、決めることを一層増やすことが必要である。 ●コロナ禍のもと、ICTを活用した授業が進んだ半面、教え込みに戻った授業があった。	育成する力 21世紀型“スキル&倫理観” めざす子ども像	【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【主体的に学ぶ力】【自己形成力】 変化の激しい社会をたくましく生きる子ども 1 基礎学力を身につけ、自ら学び続ける子 2 運動・食習慣を身につけ、活力のある生活ができる子 3 規範意識を身につけ、思いやりのある言動ができる子
研究	テーマ 自分で選ぶ、自分で決める 子ども主体の学び 内容等 算数科を柱として、外国語活動・外国語科、道徳、ICT、体育、縦割りの班活動等、縦断的、横断的な、学習者起点の学びを行う。	めざす授業の姿 自分で選ぶ、自分で決めるなかで、知的好奇心・意欲を高め、学び続ける児童を育てる授業 【合言葉】学校は励ますところだ大作戦 - 「ほめて、認めて、励ます」指導を貫く-		

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立神村小学校

年 目	中期経営 目標	重 点	分 類	短期経営 目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る取組状況 ☆指標に対する状況 ○成果▲課題	力 加 評 価	達 成 評 価	○改善方策	□指標に係る取組状況 ☆指標に対する状況 ○成果 ▲課題 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	力 加 評 価	達 成 評 価	総 合 評 価	○改善方策
2	「主体的な学び」の授業づくりを進めて、学ぶ意欲と学力を向上させる	★	継 続	「主体的・対話的で深い学びのある授業」について、共通理解を持つ	<ul style="list-style-type: none"> <li>予習型授業づくり(事前の予習、展開での話し合い、適応題の量の確保、個別の支援)の推進</li> <li>自分の考えを持ち、説明できる児童の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>算数科で予習型授業づくりを進める教師の割合100%</li> <li>「授業で、友達の考えを聞いたり友達と話したりすることが楽しい」と肯定的評価する児童80%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆教師割合 100%</li> <li>○各アンケート結果から、児童の学習意欲は高まっている。</li> <li>▲高学年児童の予習型授業づくりに対する肯定的評価が73%</li> <li>☆肯定的評価 88.7%</li> <li>○友達と話し合う活動を取り入れた授業を楽しんでいる。</li> <li>▲低学年の肯定的評価がやや低い。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>○予習型授業に対する肯定的評価が低い児童には、既習事項を使って取り組む方法を指導する。また、学習内容の定着の徹底に努める。</li> <li>○低学年は、話し合い活動の仕方の指導を行う。また、一人一人の話す力と聞く力を高めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆教師の割合 100%</li> <li>○授業がよくわかると答えた児童は90%を超え、意欲は高い。</li> <li>▲予習型授業づくりに対する肯定的評価75%に留まっている。</li> <li>☆肯定的評価87.2%</li> <li>○友達と話し合う活動を取り入れた授業を楽しんでいる。</li> <li>▲低学年の肯定的評価は80%を超えたが、高学年に比べるとやや低い。</li> <li>◎「主体的・対話的で深い学びのある授業」については、一定の共通理解が図れた。今後も積極的な取組を進めていく。</li> </ul>	4	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○予習問題が難しいと感じているので、授業内容と児童事態に合わせた問題を出していく。</li> <li>○話し合い活動の意味と意義を考えて効果的に授業に取り入れる。</li> </ul>

2	教職員の資質・能力を向上させる		継続	<p>「めざす子ども像」「めざす授業の姿」実現に向け、主体的に取り組む教職員なる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員が主体性を持ち、よりよい学校づくりに貢献</li> <li>・児童理解が進み、生徒指導上の諸問題を減らすための暮会（「子どものよさを語る会」3分×週2回程度）をする。（年間80%の暮会）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1人1プロジェクトを推進し、「仕事にやりがいを感じている」教職員の割合80%以上</li> <li>・「児童に対してじっくり話を聞き、考える手助けができていく。」と回答する教職員100%</li> </ul>	<p>☆教職員割合 94.7%</p> <p>○1学期中間・期末と進捗状況を交流し、改善点を明確にして取り組んだことで、一人一人の方向性が明確になった。</p> <p>▲さらに全教職員の意欲を高める必要がある。</p> <p>☆教職員割合 100%</p> <p>○学年や学級、個人の頑張りやよさを交流することで、教職員の児童理解は進んでいる。</p> <p>▲「子どものよさを語る会」3分×週2回）の実施率は、40%であった。</p>	3	4	<p>○各主任を中心に進捗状況を確認してプロジェクトの推進を進めていく。</p> <p>○今後も児童の頑張りやよさを共有しながら、全教職員で児童理解を図る。また、児童と向き合い、一人一人の児童をよりよい方向へ導いていくよう取り組んでいく。</p>	<p>☆教職員割合 100%</p> <p>○中間・期末の進捗状況を交流し、改善点を明確にして取り組んだことで、一人一人の達成度も高まった。</p> <p>☆教職員割合 100%</p> <p>○校内で頑張っている児童を放送で紹介し、全校で頑張りやよさを認め、共有することができた。</p> <p>▲「子どものよさを語る会」3分×週2回）の実施率は、20%であった。</p> <p>◎教職員の肯定的評価は高いことから、意欲は高まっている。</p>	4	4	4	<p>○取組内容や目標、手立てなどを精査し、よりよい取組になるよう改善する。</p> <p>○今後も児童の頑張りやよさを共有し、児童理解を深め、一人一人に必要な手立てや声かけを行っていく。</p>
2	生徒の自己肯定感を高める	★	継続	<p>児童の特性に応じた授業づくり・支援により、心のコップが上向きになった児童を育てる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の自己評価の継続と課題に係る改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「3つのM」における児童の行動化に係る肯定的評価85%以上</li> <li>※Mとは「自ら考える」の頭文字</li> <li>※3つとは「表現する子」「やりきる子」「関わり合う子」</li> </ul>	<p>☆肯定的評価 92%</p> <p>○児童が自ら月毎に自己評価したことで、次の目標を立てることができた。また、集中して取り組む期間を設定することで、取組が焦点化できた。</p> <p>▲否定的評価の児童がいる。8%</p>	4	3	<p>○「3つのM」に係る自己評価を、行事や縦割り掃除、当番など焦点化して行う。また、肯定的評価が低い児童には、頑張りやよさを認め励ましていく。</p>	<p>☆肯定的評価 97%</p> <p>○行事ごとに児童が自ら目標を設定し、掲示することで、取組内容を意識して行動化することができた。また、肯定的評価が低い児童には、積極的に肯定的な声かけを行うことで自信をもって行動することができるようになってきた。</p>				<p>○児童が自信をもって行動化できるよう引き続き積極的に肯定的な声かけを行っていく。</p>

				<ul style="list-style-type: none"> <li>長欠対策委員会による、「ほめて、認めて、励ます」指導に視点をとおいた取組の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>長期欠席・出席停止の児童を昨年度の90%以下</li> <li>「先生は自分のよいところを認めてくれる」と肯定的に回答する児童90%以上</li> </ul>	<p>☆長期欠席8名(9月末) 昨年度3月末との比較 23%</p> <p>☆肯定的評価93%</p> <p>○早めの対応を心掛けることで新たな長期欠席児童はいない。また、児童一人一人に寄り添い、肯定的な声掛けを行うことが、減少傾向につながっていると考える。</p> <p>▲長期欠席児童を減らすことは本校の重点課題である。例年、冬に向けて欠席が多くなる傾向になるので、取組の強化をしていく。</p>	<p>○学校に通いたいと思えるような取組を進めたり、授業を行ったりしていく。また、引き続き、取組を進め、児童のよいところに向け、「ほめて、認めて、励ます」指導を続ける。</p>	<p>☆長期欠席13名(1月末) 昨年度3月末との比較38%</p> <p>☆肯定的評価94%</p> <p>○児童の様子を早めに察知し、連携を行っていることもあり、昨年度よりも長期欠席児童は減少している。</p> <p>○教職員が、肯定的な声掛けを意識して行っているため、「先生はよいところを認めてくれる」の肯定的評価は依然高い数値を保っている。</p> <p>▲長期欠席児童は減少の傾向にあるが、今後も本校の最重要課題である。</p> <p>◎児童の意欲は高まっているが、さらに長期欠席児童の減少に向けた取組を行っていく。</p>	4	3	3	<p>○新たな長期欠席児童をうまない取組が必要である。引き続き学校に行きたいと思える学級、学年、学校づくりを教職員一人一人が考え、「ほめて認めて励ます指導」を実行することが必要である。</p>
--	--	--	--	---	--	--	--	---	---	---	---	--

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。